2024年活動報告

交通事故死者ゼロを目指し、普及活動を拡充

2050年に全世界でHondaの二輪車、四輪車が関与する交通事故死者ゼロを目指し、Honda安全運転普及本部は2024年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本に交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を展開した。

自転車事故の低減に寄与するための教育教材を開発

自転車が関係する交通事故の低減に寄与するため、教育教材「自転車の安全な道路の走り方」を開発し、地域の交通安全指導者に提供している。この教材は、こどもが同乗する際の安全な乗降や取り回しの方法、ヘルメットの有効性や走行中の危険（電動アシスト自転車を含む）などをわかりやすく紹介。信号機のない交差点を通行する自転車の様子を観察した映像から、日頃の運転行動を振り返るとともに、安全な走り方について考えてもらえるような内容となっている。映像内には問いかけを促す部分もあり、これを活用することで受講者と対話形式で進めることができる。

「自転車の安全な道路の走り方」は「はじめに」「基礎知識～こどもとの乗降車～」「ヘルメットの有効性」「走行中の危険」「観察映像」の5つのパートで構成

保護者も参加する幼児向けの交通安全教室などで活用されている

トヨタ自動車（株）と連携した一般ドライバーへの安全運転講習

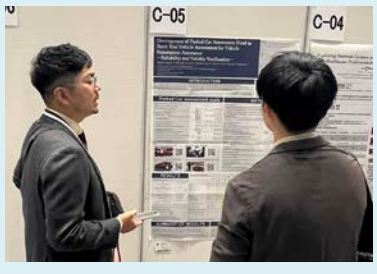
二輪車の事故の多くは相手が四輪車であることから、Hondaはドライバーに二輪車への理解を深めてもらう取り組みを進めている。その一環として、トヨタ自動車（株）と連携し、4月と9月に「トヨタ交通安全センター モビリタ（以下、モビリタ）」（静岡県小山町・富士スピードウェイ内）で安全運転講習を開催。モビリタと鈴鹿サーキット交通教育センターのインストラクターが協力し、受講した一般ドライバーに二輪車対四輪車の事故で多い右折直進事故などを防ぐための指導を行った。

モビリタと鈴鹿サーキット交通教育センターのインストラクターによる安全運転講習

日本運転リハプロジェクトと連携し、運転能力に関する評価や手法を普及

Honda は日本運転リハプロジェクトと連携し、高次脳機能障がい等でお身体が不自由になった方がリハビリテーションを経て運転を再開しようとする際の地域病院施設における運転能力評価プロセスの構築をサポートしている。同プロジェクトは、地域性や病院施設の規模にかかわらず実施できる運転評価の手法（停止車両評価）を全国に普及している。2024年は新たに群馬県と長崎県を加えた10県で研修を開催し、日本運転リハプロジェクトのシニアアドバイザー岩佐英志さんとともに、運転評価の考え方と停止車両評価の具体的な手法を受講者に伝えた。受講者の多くが所属する病院施設で研修の内容を共有し、運転評価の導入を進めている。

また、11月に北海道で開催されたアジア太平洋作業療法学会では日本運転リハプロジェクトのメンバーが運転評価のノウハウを紹介。参加した海外の作業療法士から注目を集めた。



アジア太平洋作業療法学会では運転評価のノウハウを海外に発信

10県で開催した日本運転リハプロジェクトの研修には作業療法士など82名が受講

官公庁や関係諸団体の活動に協力

Hondaは1969年から実施されている全国白バイ安全運転競技大会（主催：警察庁）の審判業務に協力し、運営をサポートしている。2024年の同大会は10月に行われ、開催前に安全運転普及本部のスタッフが審判を務める警察官と競技規則に則って、審査基準の整合会を実施し、全員が厳正公平で正確なジャッジを行えるよう意思統一を図った。

また、現在、国内で生産・販売される新車にはADAS（先進運転支援システム）の一つである衝突被害軽減ブレーキの装着が義務づけられている。今後、そうしたクルマで運転免許取得時の路上試験が実施されることから、運転免許技能試験官もADASに関する正しい知識などを身につけておく必要がある。Hondaは警察庁の依頼を受け、各都道府県警察の運転免許技能試験官を対象にADASや自動運転に関する講義を行った。

このほか、2024年は11月に愛媛県今治市で開催された国際自転車安全会議にも協力し、参加した国内外の自転車安全分野の専門家や研究者にHondaの安全に関する取り組みを紹介した。

10月12～14日に自動車安全運転センター安全運転中央研修所（茨城県ひたちなか市）で開催された第54回全国白バイ安全運転競技大会